

平成10年度の「宇宙開発計画」について

平成10年4月8日
宇宙開発委員会事務局

1. 「宇宙開発計画」とは

- ・「宇宙開発計画」は、当面の打上げ目標時期等を明らかにしつつ、各年度以降に実施すべき政府の宇宙開発活動を位置付けるもの。
- ・同計画は毎年、予算の国会通過時期に合わせ宇宙開発委員会が決定。
- ・また、「宇宙開発計画」は、毎年、宇宙開発事業団法第24条に基づき、宇宙開発委員会の議決を経て内閣総理大臣が定める「宇宙開発に関する基本計画」ともなる。
- ・これらの計画は、それぞれプレス発表、官報告示を行い、広く国民に公表する。

2. 平成10年度の「宇宙開発計画」の概要

- ・平成10年度の「宇宙開発計画」の内、平成9年度の同計画からの主な変更点を別紙に示す。

3. スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 4月8日（水） | ・「宇宙開発計画」を宇宙開発委員会が決定し（プレスに発表）、
内閣総理大臣へ意見具申 |
| | ・内閣総理大臣は、「宇宙開発計画」を受けて宇宙開発委員会に対し同計画を宇宙開発事業団法第24条に基づき、「宇宙開発に関する基本計画」として議決の要請 |
| | ・宇宙開発委員会が議決 |
| 4月中旬以降 | ・「宇宙開発に関する基本計画」を内閣総理大臣が決定
（その後直ちに官報に告示） |

（参考）

宇宙開発事業団法〔昭和44年6月23日 法律第50号〕（抜粋）

（業務運営の基準）

第24条 事業団の業務は、宇宙開発委員会の議決を経て内閣総理大臣が定める宇宙開発に関する基本計画に基づいて行わなければならない。

平成10年度宇宙開発計画（案）の主要点

（現計画からの変更点）

フェーズ	プロジェクト名	打上げ年度	打上げロケット	本文頁
開発へ移行	陸域観測技術衛星 （ALOS）（科技厅・通産省）	平成14年度	H-II A	2
	技術試験衛星Ⅷ型 （ETS-Ⅷ）（科技厅・郵政省）	平成14年度	H-II A	12
開発研究へ移行	月探査周回衛星 （SELENE）（科技厅・文部省）	平成15年度頃	H-II A	7
打上げ年度の変更	国際宇宙ステーションの日本の実験棟 （JEM）（科技厅）	平成12年度、平成13年度 →平成13年度	スペースシャトル	16
	データ中継技術衛星 （DRTS-E）（科技厅）	平成12年度 →平成14年度	H-II A	17

（その他）

・セントリフュージ

NASAが整備を計画している生命科学実験施設（セントリフュージ）を構成する生命科学グローブボックス、人工重力発生装置及び同搭載モジュールについて、我が国のJEMをNASAが打ち上げることのオフセットとして開発（本文16頁）

・NASDAの受託打上げ等

宇宙開発事業団は、民間からの委託に応じ、平成12年度以降、H-II Aロケットを用いて人工衛星を打ち上げる。（本文20頁）

また、打上げ増に対応するため、法令整備を行う。（本文24頁）

（参考）

宇宙開発計画上の区分：研究（概念設計） 開発研究（システム確定、予備設計）
開発（詳細設計、製作、試験、打上げ）

運用・研究の変更等

(1) 地球観測・地球科学の分野

- ・地球観測プラットフォーム技術衛星(ADEOS)の運用停止
- ・熱帯降雨観測衛星(TRMM)の運用
- ・新規研究
環境観測技術衛星の後継ミッションの研究

(2) 通信・放送・測位等の分野

- ・通信衛星3号(CS-3b)の運用停止
- ・通信放送技術衛星(COMETS)「かけはし」の運用

(3) 有人宇宙活動の分野

- ・新規研究
国際宇宙ステーション建設に備えた宇宙医学研究

(4) 人工衛星の基盤技術の分野

- ・技術試験衛星V型(ETS-V)の運用停止
- ・技術試験衛星VII型(ETS-VII)「おりひめ・ひこぼし」の運用
- ・新規研究
更なる効率化を目指した新たな衛星開発手法の研究

(5) 宇宙インフラストラクチャーの分野

[輸送系]

- ・新規研究
高速再突入技術実験のための研究
ロケット推進単段再使用型宇宙輸送機の研究
衛星の要求に柔軟に応えられる安価な小型ロケット打上げシステムの研究

[支援系]

- ・新規研究
宇宙環境安全・利用技術を含む軌道上インフラストラクチャーの総合的研究

(6) 複数の分野に属するもの

- ・新規研究
複数の衛星を利用した防災・危機管理システムの研究

(7) 打上げ

- ・ 民間からの委託に応じた人工衛星等の打上げ

(8) 施設の整備

- ・ 衛星の運用コストの半減を目指した追跡管制システムの整備

(9) その他の施策

- ・ 所要の体制の整備、技術移転の促進等の環境の整備
- ・ 特に、万一第三者に損害が発生した場合の損害賠償措置に係る法令整備

人工衛星打上げの実績及び計画

▲ 打上げ済のもの

打上げ機\年度	昭和44	昭和45	昭和46	昭和47	昭和48	昭和49	昭和50	昭和51	昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	
M-ロケット	▲「おおよすみ」 (Lロケット)	▲試験衛星 (MS-T1) 「たんせい」	▲「しんせい」 (MS-F2) 第1号科学衛星	▲「でんば」 (REXS) 第2号科学衛星	▲試験衛星 (MS-T2) 「たんせい2号」	▲「たいよう」 (SRATS) 第3号科学衛星		▲試験衛星 (MS-T3) 「たんせい3号」		▲第5号科学衛星 (EXOSA-A) 「きょっこう」	▲第4号科学衛星 (CORSA-b) 「はくちょう」 第6号科学衛星 (EXOSA-B) 「じきけん」	▲試験衛星 (MS-T4) 「たんせい4号」	▲第7号科学衛星 (ASTRO-A) 「ひのとり」	▲第8号科学衛星 (ASTRO-B) 「てんま」	▲第9号科学衛星 (EXOSA-C) 「おおぞら」	
N-Iロケット 静止軌道に 静約130kg							▲「きく」 技術試験衛星I型 (ETSI-I)	▲技術試験衛星II型 (ETSI-II) 「きく2号」		▲電離層観測衛星 (ISS-b) 「うめ2号」	▲実験用静止通信衛星 (ECS) 「あやめ」	▲実験用静止通信衛星 (ECS-b) 「あやめ2号」		▲技術試験衛星III型 (ETSI-III) 「きく4号」		
N-IIロケット 静止軌道に 静約350kg												▲技術試験衛星IV型 (ETSI-IV) 「きく3号」	▲静止気象衛星2号 (GMS-2) 「ひまわり2号」	▲通信衛星2号-a (CS-2a) 「さくら2号-a」	▲通信衛星2号-b (CS-2b) 「さくら2号-b」	▲放送衛星2号-a (BS-2a) 「ゆり2号-a」 通信衛星2号-b (CS-2b) 「さくら2号-b」
H-Iロケット 静止軌道に 静約550kg																
その他 「米シは型」 「ペトイケ」 「スア又」 「ル捨ッ」									▲(GMS) 静止気象衛星 「ひまわり」	▲実験用中型放送衛星 (BS) 「ゆり」 ▲通信衛星(CS) 静止気象衛星 「さくら」					▲粒子加速装置を用い た宇宙科学実験 (SEPAC)	

打上げ機\年度	昭 59	昭60	昭61	昭 62	昭63	平成 元	平 2	平 3	平 4	平 5	平成 6
M-3SⅡ ロケット [低軌道に 約770kg]	▲試験惑星探査機 (MS-T5) 「さきがけ」	▲第10号科学衛星 (PLANET-A) 「すなわち」	▲第11号科学衛星 (ASTROIC) 「ぎんが」		▲第12号科学衛星 (EXOS-D) 「あけぼの」	▲第13号科学衛星 (MUSE-A) 「ひてん」		▲第14号科学衛星 (SOLARA-A) 「ようこう」	▲第15号科学衛星 (ASTRO-D) 「あすか」		▲無人軌道上からの 回収システム (EXPERESS)
N-Ⅱロケット [静止軌道に 約350kg]	▲静止気象衛星3号 (GMS-3) 「ひまわり3号」	▲放送衛星2号-b (BS-2b) 「ゆり2号-b」	▲海洋観測衛星1号 (MOS-1) 「もも1号」								
H-Ⅰロケット [静止軌道に 約550kg]			▲[注1] H-Ⅰロケット (2段式)試験機	▲通信衛星3号-a (CS-3a) 「さくら3号-a」 ▲技術試験衛星V型 (ETS-V) 「きく5号」	▲通信衛星3号-b (CS-3b) 「さくら3号-b」	▲[注2] 海洋観測衛星 (MOS-1b) 「もも1号-b」 ▲静止気象衛星4号 (GMS-4) 「ひまわり4号」	▲放送衛星3号-a (BS-3a) 「ゆり3号-a」	▲地球資源衛星1号 (JERS-1) 「ふよう1号」 ▲放送衛星3号-b (BS-3b) 「ゆり3号-b」			
H-Ⅱロケット [静止軌道に 約2t]										▲[注3] 軌道再突入実験機 (OR EX) 「りゅうせい」 ▲H-Ⅱ性能確認用 ペイロード(VLP) 「みょうじょう」	▲[注3] 宇宙実験・観測フリ ーフライヤ(SFU) 静止気象衛星5号 (GMS-5) 「ひまわり5号」 ▲技術試験衛星VI型 (ETS-VI) 「きく6号」
そ の 他 [米国スペース シャトル 又は使い捨て型 ロケット]			注1 測地試験衛星(EGS)あじさい アマチュア衛星(JAS-1)ふじ等を打上げ 注2 アマチュア衛星(JAS-1b)ふじ2号等同時打上げ 注3 同時打上げ					▲第一次材料実験 (FMP-T) 「ふわっと92」 ▲磁気圏観測衛星 (GEOTAIL)			▲第2次国際微小重力 実験室(IML-2)

打上げ機／年度	平成 7	平成 8	平成 9	平成 1 0	平成 1 1	平成 1 2	平成 1 3	平成 1 4	平成 1 5
M-V ロケット 低軌道に 約 1・8 t		▲第16号科学衛星 (MUSES-B) 「はるか」		△第17号科学衛星 (LUNAR-A) △第18号科学衛星 (PLANET-B)	△第19号科学衛星 (ASTRO-E)		△第20号科学衛星 (MUSE-S-C)	△第21号科学衛星 (ASTRO-F)	
H-II ロケット 静止軌道に 約 2 t		▲地球観測プラットフォーム技術衛星 (ADEOS) 「みどり」	▲通信放送技術衛星 (COMETS) 「かけはし」 ▲熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 技術試験衛星Ⅶ型 (ETS-V) 「きく7号」		△環境観測技術衛星 (ADEOS-II) △運輸多目的衛星 (MTSAT)				
H-II A ロケット 静止軌道に 約 2 t 3 t	注 4 注 5 注 6	アマチュア衛星 (JAS-2) ふじ3号同時打上げ 同時打上げ 欧州宇宙機関 ESA の衛星			△先端型データ中継 技術衛星 (ARTEMIS) 「注 6」	△次世代無人宇宙実験 システム (USERS) △ライダ実証衛星 (MDS-2) △宇宙往還技術試験機 (HOPE-X) 「注 5」 データ中継技術衛星 (DRTS-W) 民生部品コンポーネ ント実証衛星 (MDS-1)	△宇宙ステーション補 給システム (HTV)	△技術試験衛星Ⅳ型 (ETS-Ⅳ) △陸域観測技術衛星 (ALOS) △データ中継技術衛星 (DRTS-E)	△月探査周回衛星 (SELENE)
J-I ロケット 低軌道に 約 1 t	▲J-I 性能確認 極超音速飛行実験 (HYFLEX)					△光衛星間通信実験衛 星 (OICETS)			
そ の 他 一ル捨ッ ペトイケ スィ使ロ 国シは型 米ス又てト	▲宇宙実験・観測フリ ーフライヤ (SFU) の回収	▲高エネルギー・トラ ンジェント宇宙放射 線観測衛星 (HETE) 「X線観測装置」		△極軌道プラットフォーム1号 (EOS-AM1) 資源探査用将来型 センサ (ASTER)	高エネルギー・トラ ンジェント宇宙放射 線観測衛星 (HETE) 「X線観測装置」	△極軌道プラットフォーム (EOS-PM1) 改良型高性能マイ クロ波放射計 (AMSR-E)	△生命科学実験施設 (生命科学グローブ ボックス) △宇宙ステーションの 日本の実験棟 (JEM)		△生命科学実験施設 (人工重力発生装置 搭載棟)